

2) 母子保健における糖尿病対策

1. 草津市糖尿病対策の取り組みについて

平成22年度に滋賀県国民健康保険団体連合会による「保険医療・介護等総合診断事業」を受け、国民健康保険と後期高齢者医療保険とを合わせた医療給付状況で、疾病(生活習慣病)別1人当たり医療費が、入院で脳出血、糖尿病性神経障害、脳梗塞の順に高く、外来・調剤では動脈閉塞、糖尿病性神経障害、糖尿病性網膜症、高尿酸血症、糖尿病性腎症の順に高い状況であった。そこで、草津市においては「医療費適正化対策として、特に脳卒中予防と糖尿病重症化予防対策を重点的に取り組む必要がある」との提言を受けた。「健康くさつ21」においても生活習慣病対策を1つの領域として位置づけており、この提言を受け、重要な取り組みとして草津市健康づくり推進協議会および成人・老人部会での検討を重ねた結果、糖尿病予防が脳卒中予防にもつながることから、本市の医療費適正化対策の重点施策として糖尿病対策に取り組むことになった。

糖尿病予防ガイドライン

	市民の目標	重点施策	母子保健における取り組み
健康増進・発症予防	糖尿病について正しく知ることができる	啓発活動(予防) 地域ぐるみの糖尿病予防活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ●2歳6か月健診で糖尿病予防のための生活習慣についての啓発チラシ配布。 ●2歳6か月健診で肥満度20%以上の児に対し、生活習慣について個別指導実施。 ●すこやか訪問において妊娠中の糖尿病リスク実態把握を行い、フォロー方法を検討。
早期発見	健診を受診することで自らの状態を知ることができる	健診受診率の向上	
早期対応	生活習慣を見直し、改善することができる	健診事後指導の徹底 啓発活動(対応)	
適正治療・重症化予防	適正な治療を受け、これ以上進行しないための行動に移せる	継続治療に向けた保健・医療・福祉・介護の連携 生活習慣の改善指導	

2. 妊産婦における糖尿病対策

(1) すこやか訪問による聞き取り結果

妊娠糖尿病の人が産後1年以内に糖尿病になる頻度は2.6～38%、産後5～16年では17～63%の頻度と報告されており、妊娠糖尿病の妊婦は、正常の妊婦に比べて、将来糖尿病になる確率は7.43倍とされている。また、産後11年経ったときにはメタボリックシンドロームの発症率は27.2%とも言われている。草津市の妊娠糖尿病の実態を把握するために、すこやか訪問(新生児訪問)において妊娠糖尿病有無・尿蛋白や糖の有無等について聞き取りを行った。(H26.12.1～H27.8.31 受付分の885件)

○尿蛋白(+)以上

年齢	なし	1回	2回	3回以上	計	3回以上割合(年齢)	3回以上割合(全体)
18～19歳	2	1	1	2	6	33.3%	0.2%
20～24歳	30	3	1	2	36	5.6%	0.2%
25～29歳	167	33	13	17	230	7.4%	1.9%
30～34歳	266	40	26	22	354	6.2%	2.5%
35～39歳	163	32	16	11	222	5.0%	1.2%
40歳～	28	4	3	2	37	5.4%	0.2%
合計	656	113	60	56	885	6.3%	6.3%

○尿糖(+)以上

年齢	なし	1回	2回	3回以上	計	3回以上割合(年齢)	3回以上割合(全体)
18～19歳	5	1	0	0	6	0.0%	0.0%
20～24歳	32	3	1	0	36	0.0%	0.0%
25～29歳	189	24	4	13	230	5.7%	1.5%
30～34歳	290	36	10	18	354	5.1%	2.0%
35～39歳	182	16	11	13	222	5.9%	1.5%
40歳～	33	2	1	1	37	2.7%	0.1%
合計	731	82	27	45	885	5.1%	5.1%

○妊娠糖尿病

年齢	なし	該当	計	該当割合 (年齢)	該当割合 (全体)
18～19歳	6	0	6	0.0%	0.0%
20～24歳	36	0	36	0.0%	0.0%
25～29歳	228	2	230	0.9%	0.2%
30～34歳	352	2	354	0.6%	0.2%
35～39歳	218	4	222	1.8%	0.5%
40歳～	35	2	37	5.4%	0.2%
合計	875	10	885	1.1%	1.1%



(参考)

妊娠糖尿病該当者・妊娠時の状況(延)

巨大児出産歴	0
尿蛋白1回	1
尿蛋白3回以上	3
尿糖2回	3
尿糖3回以上	3
75gブドウ糖負荷試験(OGTT)	8
BMI25以上	2
家族歴あり	5

妊娠糖尿病該当者・児の出生児時体重

2500g未満	1
2500～2999g	5
3000～3499g	4
3500g～	1
計	11

双胎1組

妊娠糖尿病であった産婦は1.1%であった。
日本における妊娠糖尿病の頻度は、全員にOGTTを実施した場合12.08%と言われている。

○糖尿病家族歴あり

年齢	なし	該当	計	該当割合 (年齢)	該当割合 (全体)
18～19歳	5	1	6	16.7%	0.1%
20～24歳	26	10	36	27.8%	1.1%
25～29歳	187	43	230	18.7%	4.9%
30～34歳	283	71	354	20.1%	8.0%
35～39歳	175	47	222	21.2%	5.3%
40歳～	29	8	37	21.6%	0.9%
合計	705	180	885	20.3%	20.3%

糖尿病の家族がいる人は、全産婦の20%。
日本では、糖尿病または糖尿病の予備軍は、5人に1人と言われている。

○非妊娠時肥満度(BMI 25以上)

年齢	なし	25以上	計	25以上割合 (年齢)	25以上割合 (全体)
18～19歳	6	0	6	0.0%	0.0%
20～24歳	35	1	36	2.8%	0.1%
25～29歳	219	11	230	4.8%	1.2%
30～34歳	341	13	354	3.7%	1.5%
35～39歳	209	13	222	5.9%	1.5%
40歳～	34	3	37	8.1%	0.3%
合計	844	41	885	4.6%	4.6%

BMI25以上の人は41人で4.6%の人が肥満である。肥満と糖尿病は深い関係にあると言われている。

○巨大時出産歴(巨大児=4000g)

年齢	なし	過去	今回	計	今回割合 (年齢)	今回割合 (合計)
18~19歳	6	0	0	6	0.0%	0.0%
20~24歳	35	0	1	36	2.8%	0.1%
25~29歳	230	0	0	230	0.0%	0.0%
30~34歳	351	1	2	354	0.6%	0.2%
35~39歳	220	1	1	222	0.5%	0.1%
40歳~	37	0	0	37	0.0%	0.0%
合計	879	2	4	885	0.5%	0.5%

今回の出産で巨大児を出産した人は4人。

(参考)

巨大児出産今回・出生時の状況

年齢	在胎週数	出生体重
34歳	40週	4412
38歳	41週	4136
22歳	40週	4140
30歳	42週	4016

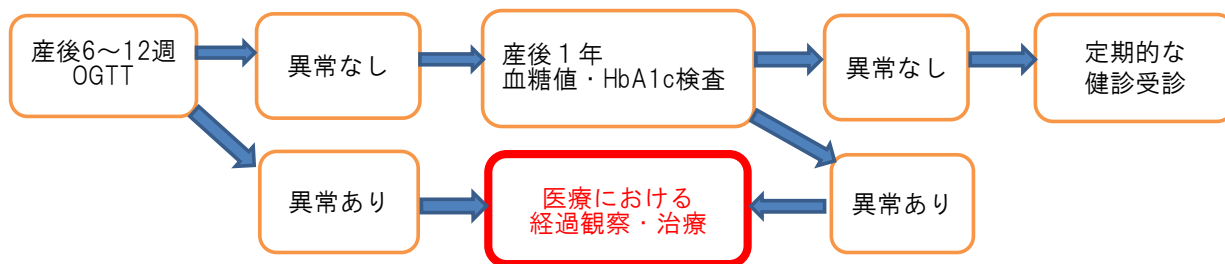
H26年度出生児のうち3600g以上で出生した児の数

出生体重	人数	割合	81	6.0%
~3599g	1280	94.0%		
3600g~	33	2.4%		
3700g~	18	1.3%		
3800g~	13	1.0%		
3900g~	9	0.7%		
4000g~	8	0.6%		
合計	1361	100.0%		

3600g以上の児を出産した産婦は全体の6%。

(2) 妊娠糖尿病の産婦の事後フォローについて

① 医療における妊娠糖尿病産婦のフォロー



* OGTT: 75gブドウ糖負荷試験

② 実態(医師・管内研修会における情報)

産後6~12週の受診は多くの産婦ができていますが、産後1年の受診ができていないことが多い。産後のOGTT実施は、子連れで1日ばかりでの受診となり、気軽に受診できない。

③ 課題

妊娠糖尿病の産婦が産後に必要な検査を受け、自らの健康に関心を持ち、食事や運動等生活習慣に気をつけて生活を行うことで、将来の糖尿病発症予防および早期発見ができるようするとともに、肥満は重要な妊娠糖尿病の危険因子であるため、母親が健康な状態で妊娠・出産・育児が行えるように、肥満予防対策が必要である。

④ 今後の取り組み

- ・妊娠糖尿病であった産婦に、産後6~12週の受診の必要性についての啓発および受診勧奨を行う。
- ・妊娠糖尿病産婦の生活歴・生活状況の実態把握を行い、生活背景から解決すべき課題を見出し、今後の取り組みを検討する。